

外国語科学習指導案

科目名	コミュニケーション英語 I		
実施日	令和2年10月29日(木)	実施時間	11:45-12:35
場所	2年〇〇科教室(3F)	指導者	〇〇 〇〇
対象生徒	2年〇〇科(20名)	使用教科書	VISTA I

外国語科 目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどの確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3)英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

具体的な言語活動 (can-do リストより)

聞くこと	読むこと	話すこと(やりとり)	話すこと(発表)	書くこと
(1)学校や余暇などの場面での話題についての会話やスピーチを聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や話の展開を理解する活動。	(1)身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要を理解する活動。	(1)ごく身近な話題について、簡単な質問をしたり簡単な質問に答えたりする。	(1)事前に発話することを準備した上で、自分や友人、学校生活などの身近な事柄や出来事に関する情報を伝える活動。	(1)身近な事柄に関して簡単に説明する活動。
(2)社会的な話題や課題について、概要や要点、詳細を聞き取る活動。	(2)平易な英語で書かれた短い物語や説明文を読んで、おおよそのあらすじを理解する活動。	(2)身近な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、ある程度準備をした上で、得た情報や自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	(2)事前に発話することを準備した上で、身近な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、自分の意見・主張やその理由を含めて短いスピーチをする活動。	(2)教科書の内容に関して、意見・主張やその理由を書く活動。

本時の学習指導案

小単元 および 本時の位置	Lesson 10 Part I (5/13) 時限目 *コロナの影響により、2 学期中間考査が9月中旬 に実施されました。その 為、2学期期末考査まで の授業時数が例年より多 くなっています。	本時の目標	英語×道徳教育 ・英語 人生で感謝する人について英語で発表、やりとりを行い、意 見を伝え合う。 ・道徳教育 活動を通じ、感謝の心をもって生きることの大切さを改めて 考える。
---------------------	--	-------	--

生徒の実態 及び 指導観	<p>[生徒の実態]</p> <p>(1) 教員からの指示や発問にも積極的に応え、真摯に学習に取り組む。</p> <p>(2) 20名の少人数クラスではあるが、ペアワークやグループワークにも意欲的に参加する。</p> <p>(3) 授業態度は概ね良好である反面、英語を苦手とする生徒の割合は高い。</p> <p>(4) 福祉科で学んでいるため、他人に対して気配りや目配りができる生徒が多い。</p> <p>[指導観]</p> <p>辻井伸行氏が2009年、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝を勝ち取った。生まれながらにして目に障がいを持ちながらもこの快挙に至った背景には、家族、特に母親の支えがあった。実際、本文中での「貴方の成功を誰に感謝しますか」と問いかげに、氏は「母です」ときっぱりと答えている。</p> <p>本時では、この疑問文” Who do you thank for your success?” に焦点を当て、言語活動を行う。具体的には” Who do you thank for your life?” と生徒にとって身近な問いかげへと少しアレンジし、今までの人生で感謝する人について考えさせる。考えたことについて英語で発表、やりとりさせ、4技能の伸長を目指したい。また、本活動の内容は道徳教育と親和性が高い。このことを踏まえ、思いやりの気持ちを持って人と接することの大切さも改めて生徒に考えさせたい。</p>		
--------------------	---	--	--

観点別評価	A	知識・技能	積極的に知識や技能を活用する言語活動に取り組んでいるか。
	B	思考力・判断力・表現力	簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあっているか。
	C	主体的な学習態度	主体的にコミュニケーションを図ろうとして、自分の考えなどを筋道を立てて表現しているか。

指導過程

指導過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入・理解 (10分)	Warm-up Review Part I	①辻井さんのピアノ演奏を視聴する。 ②ペアで感想を述べる。(日本語 or 英語) ③感想を尋ねられた生徒は簡単に感想を答える。(Goodなどシンプルな表現で可) ④簡単な Q/A を通し、part I の内容を復習する。	・視聴後に感想を求めると伝える。 ・集中して視聴させる。 ・机間指導しながら個別に感想を尋ねる。 ・単語、フレーズレベルでも構わないのでQ/Aにしっかり答えさせる。	[机間指導&アドバイス] A 表現をきちんと覚えているか観察する。 A 正確に発音できているか確認する。 B Q/A にしっかり答えているか確認する。

<p>表現活動Ⅰ (10分)</p>	<p>Interviewing: skit (fixed pairs in group) <予行練習></p>	<p>* Interviewer (JTE) と Interviewee(ALT)の発表を視聴する。(ロールモデル) <4人×5グループ> ①Interviewe と Interviewee でスキットを行う。 ②Interviewerは質問する。適宜、相槌を挟む。(Filler wordsの使用も可) ③Interviewee は質問に答える。 ④その他のメンバーは発表を聞き、アドバイス等を行う。 ⑤発表者はフィードバックされたことを意識し、全体発表に備える。(個人内評価)</p>	<p>・スキットを行わせる。 ・ループリック評価用紙を用い、グループメンバーの発表についてアドバイスさせる。 ・発表者にフィードバックされたことを意識させる。</p>	<p>[机間指導&アドバイス] A 単語の発音やイントネーションを点検する。 B 簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあっているか観察する。 C 互いに活動を主体的に行えているかどうか観察する。 C 自分の考えなどを筋道を立てて表現しているか観察する。</p>
<p>表現活動Ⅱ (15分)</p>	<p>Interviewing: skit (fixed pairs in class) <本番></p>	<p><全体発表(2人×10組)> ①Interviewe と Interviewee でスキットを行う。 (2人×10組) ②その他の生徒は発表についてループリック評価用紙を用い、評価する。 *ICT活用 (マイク、プロジェクターで資料を提示する。)</p>	<p>・スキットを行わせる。 ・発表をしっかりと評価させる。</p>	<p>[机間指導&アドバイス] B 簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあっているか観察する。 C 互いに活動を主体的に行えているかどうか観察する。 C 自分の考えなどを筋道を立てて表現しているか観察する。</p>
<p>表現活動Ⅲ (10分)</p>	<p>Interviewing (free pairs in class) <fluencyの向上></p>	<p>*級友の発表の良い点を意識しながら、その他のクラスメイト3～5人へインタビューを行う。</p>	<p>・級友の発表の良い点を意識させながら、クラスメイト3～5人へインタビューを行わせる。</p>	<p>[机間指導&アドバイス] C 英語で自分の考えを発信できているか点検する。</p>

		<p>①Interviewer と Interviewee でスキットを行う。</p> <p>②Interviewer は質問する。 適宜、相槌を挟む。メモを取る (Filler words の使用も可)</p> <p>③Interviewee は質問に答える。</p> <p>④最後に Interviewer は即興で相手の発表について感想を述べる or 質問する。</p>	<p>・ 机間指導し、活動が滞っている生徒へ指導・助言を行う。</p>	<p>B 相手の意見をしっかりと聞いて反応できているか観察する。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>本時の学習の振り返り</p>	<p>本時の学習を振り返る。</p>	<p>・ 本時の学習を振り返らせる。</p>	<p>B 本時の学習を理解できているか挙手で確認する。</p>


単元名		Lesson 10 Tsujii, the Great Pianist	
単元の目標		<p>(1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、全盲のピアニスト（辻井伸行）の人生について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 全盲のピアニスト（辻井伸行）の人生に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	
具体的な評価基準			
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。</p> <p>・英語の音声や語彙、表現、文法の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。</p>		<p>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあっている。</p>	<p>・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
単元計画			
次	時	評価基準と評価方法	学習活動
A	1	<p>【評価基準】</p> <p>・本文の概要や要点を理解できているか。</p> <p>【評価方法】</p> <p>・行動の観察・応答の確認</p>	<p><興味・関心・意欲の喚起></p> <p>○Oral introduction（英語）</p> <p>・関連動画や写真を示しながら、本文内容の導入</p>
	2 3 4 5 6	<p>【評価基準】</p> <p>・聞いた内容について、発音、強勢、イントネーション、区切りを聞き分けたうえで、正しく発音できる。</p> <p>・書かれた内容について、正しく読むことができ、大事な部分を読み取ることができる。</p> <p>【評価方法】</p> <p>・行動の観察・記述の確認</p>	<p><知識・理解の定着></p> <p>○新出語句の確認、発音練習（英語）</p> <p>・フラッシュカード（keynote）</p> <p>・接頭辞、接尾辞、語源の説明（ポキャピル）</p> <p>○精読（日本語）</p> <p>*解説動画作成</p> <p>（授業前に ipadpro+①goodnote5 又は②explain edu で画面収録を行い、解説動画を作成する</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・解説動画視聴 (欠席、公欠者については後日視聴させ学びの保障を行う) (コロナにより休校となった場合、オンライン配信予定) (*ギガスクール予算措置でインフラが整うことが条件) ・本文理解度の確認 (口頭で診断的評価を行い、学習者の学力やレディネスを図る。) ・構造分析 (カラーリング) ・内容確認 (一時停止と口頭発問を繰り返しながら、interactive な内容理解を行う) (視聴させながら支援が必要な生徒へ後方支援を行う) ・文法チェック <p>○音読 (英語+日本語)</p> <p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルリーディング (スクリーン) ・オーバーラッピング ・Read and Look up (Look up and say) ・マスキング音読 (レーザーポイントでラインを引き、本文を隠し読ませる。) (ラインの数を増やし、難易度を調整しながら虫食い音読) <p>ペアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時読み ・競争読み ・サイトラ読み (日→英、英→日) <p>*読んだ回数に応じて、教科書余白に正の字を書かせる。</p> <p>*家庭+学校で10回以上は読むよう指示する。</p> <p>*音読は目的ではなく手段であると生徒に意識させる。</p> <p>*目、耳、口で英語を使うことは習得への早道だと伝える。</p> <p>*内容理解だけでなく、英語のリズムを掴むこと、英語を英語で理解することの重要性を伝える。</p>
--	--	--	---

			<p>○内容確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q/A（英語＋日本語） （事実発問を行う） （時間に余裕があれば評価発問、推論発問も行う。）
C	7	<p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を書いたり話したりすることで伝えることができる。 ・相手に質問し、相手の意見を理解することができる。 	<p><学習内容の深化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 dialogue をベースに →インタビュー形式のQ/A スキット ①スキット作成前にビデオでお手本となるモデルを視聴させる。（発表イメージを掴む） ②スキット作成後、発表させ、その様子を録画したものを生徒に視聴させる。（自身の発表のフィードバック） ③ALT と JTE のロールモデル視聴 ④グループ練習 ⑤本番
	8 9 10 11 12 13		

The person I thank for my life

~Spoken Interaction version~ A: Interviewer B: Interviewee

A	<p>Hello. Ms. / Mr. () My name is ().</p> <p>Welcome to our TV show. (clap clap clap) How are you today?</p> 
B	<p>I'm [fine/ good] . I' m [happy /glad] to be here.</p>
A	<p>Oh, that's good. By the way, we want to know more about you.</p>
B	<p>Oh really. [I'm shy / Sure] What do you want to know?</p>
A	<p>We would like to know the person you thank for your life.</p>
B	<p>[Of course. /Yes. /Sure/ Oh.../ Uh / Let me see.]</p> <p>The person I thank for my life is ()</p>
A	<p>()? [Wow / Oh / That's nice.] Can you tell me the reason?</p>
B	<p>I have two reasons. First, I thank () because ()</p>
A	<p>That's nice. Any other reason?</p>
B	<p>Second, he/ she ()</p> <p>For example, (). So I respect him / her the most.</p>

A

*即興で何かを答える。That's [great/ interesting / moving / exciting]

① I know you thank () very much. ② I want to meet that person.

③ Thank you for answering my questions. ④I understand why you respect him/her.

Lesson 10 skit [ルーブリック評価用紙]

記入者:Class() No. () Name()

発表者:() ()



評価内容	4点	3点	2点	1点
Voice	聞き取りやすい	聞き取れる	聞こえにくい部分がある	聞き取りづらい
Memorization	原稿を全く見ずに話す	原稿に2~4回視線を落としながら話す	原稿に5~7回視線を落としながら話す	原稿をほぼずっと見て話す
Delivery ①アイコンタクト ②表情 ③身振り手振り	とても良い (①②③が効果的に用いられている。)	良い (①②③が用いられている。)	普通 (①②③のうち、少なくとも一つは用いられている)	要努力 (①②③を全く意識していない)
Fluency ①発音 ②アクセント ③イントネーション	とても良い (常に正しい①②③で発表している)	良い (ほぼ正しい①②③で発表している)	普通 (カタカナ語もあるが、ほぼ正しい①②③で発表している)	要努力 (カタカナ英語で伝わりにくい)
Interaction	とても良い (阿吽の呼吸を感じさせる素晴らしいやりとり)	良い (自然なやりとりが成立している)	普通 (多少、不自然な間はあるが、ある程度やりとりは成立している)	要努力 (やりとりが成立していない)

*Contents(内容)についての評価はパフォーマンステストで行う予定。本時では行わない。

*評価スケールは4段階とし、あえてどちらかに偏るようにする。(5段階だと中央値3に偏る恐れがあるため)

/20

Interviewing (free pairs in class)

Following the skit, interview teachers and classmates about the person they thank for their life.

And then take memos in Japanese or English below.



	例	Teacher	Student	Teacher or Student
Name	Arianne			
The person he/she thanks for his/her life	Her mother			
Reason①	私を産んでくれた			
Reason②	Always believes in me			
Reason③				

Your comment	That's Great. I would like to meet that person. (いいですね。私も会ってみたいな。)			
--------------	---	--	--	--

<先生方へのお願い>

生徒が先生方へインタビューを行います。答えられる範囲でお答え下さい。

生徒はインタビューの内容を簡単にメモします。(日本語 or 英語)

LESSON 10

Tsujii, the Great Pianist

2009年に国際ピアノコンクールで優勝した辻井伸行さんが海外で受けたインタビュー記事を読み、偉業を達成するには何が大切かを考えましょう。



© 2009 Arnd Meitz / the New York International Piano Competition

- WARM UP!**
- 辻井さんが2歳のときに弾いた曲は何? a. カエルの歌 b. シンガバル c. セツの子
 - 写真の中で誰から賞を受けている? a. アルゲリッチ b. フェニン c. クライバーン
 - 辻井さんにとってピアノとは? a. わが母 b. 良き友 c. ライバル

🔄 英文を聞いて確かめてみよう

LESSON

1

Q: You won a famous piano competition in 2009. Who do you thank for your success?

A: My mother. She took me to many places where I could have rich experiences. For example, at museums she explained each work of art on display. I could see the colors and shapes in my mind. I learned to see everything with my "mind's eye." These experiences have made my music rich.

Reading Note
辻井さんの言葉を豊かにしたものは何ですか?

- pianist [pianist ピアニスト]
- competition [kəmˈpiːtɪʃən kənˈpiːtɪʃən]
- success [səkˈses səkˈses]
- experience [ɪkˈspɪəriəns ɪkˈspɪəriəns]
- explain [ɪkˈspleɪn ɪkˈspleɪn]
- display [dɪˈspleɪ ɪkˈspleɪ]



母親のいつ子さん (© Fuji Hara)

- ▶ 2. 2009 = two thousand and nine ▶ 6. work of art 「美術作品」 ▶ 6. ~ on display 「展示してある」
- ▶ 7. learn to ~ 「~するようになる」
- Q&A**
- Who does Mr. Tsujii thank for his success?
shapes groups thanks sticks efforts
museums colors stories awards illustrations
places experiences villages sketches dishes

WORD WATCH



piano (楽器の)「ピアノ」はイタリア語のpianoforte「ピアノフォルテ」の略称です。pianoは「静音の」、forteは「強音の」という意味で、前者、後者が自由に出来ることからつけられた名称です。

2

Reading Point
辻井さんはどのような世界に入りましたか？

enter
[entəʊ ɛŋtə]

Q: When and how did you enter the world of music?

A: I was only eight months old. I moved my body to Chopin. Mother became aware of my talent at that moment when I reacted to the music. Later, she gave me a toy piano. She often says, "You looked so happy when you were touching piano keys." Before I could talk, music became my language.

- Chopin [ʃoʊpiŋ ʃəʊ'pi:ŋ]
- aware [ə'veə ʔrə'eɪ]
- talent [tælənt ʔtælənt]
- moment [mə'ment ɪ'mənt]
- react [ri'ækt ɪ'rekt]
- toy [tɔɪ ɪ'tɔɪ]
- key [keɪ ɪ'keɪ]



おちちのピアノを弾く

▶ 4. to Chopin [ショピンの曲に合わせて] ▶ 4. Chopin [ショピンの曲-ショピンの作曲家(1810~1849)]
▶ 4. become aware of ~ [~に気づく] ▶ 8. piano keys [ピアノの鍵盤]

Q&A
① When did Mr. Tsujii's mother become aware of his talent?
② What did his mother give him?

Mother became aware of my talent at that moment / when I reacted to the music.

WORD WATCH



Chopinは「ショピ」で、なせchildやchickenなどの「シ」を「[j]」で発音しないのでしょうか？それはフランス語風に発音されるからです。例えば、chickenは「チキン」ではなく「シキン」です。

3

Reading Point
私たちが大切なのは何かと井さんは思っていますか？

goal [gəʊl ɔ:ɡəʊl]

Q: What's your next goal?

A: I want to be like Beethoven. In the competition, I played a sonata which he composed after he lost his hearing. I'm sure that he could listen to any sound in his "mind's ear." He overcame his disability and wrote such wonderful pieces. I want to do the same. It's very important for everyone to have a personal goal.

- goal [gəʊl ɔ:ɡəʊl]
- Beethoven [bi:ˈhɔ:vn ɪnˈtʃu:vn]
- sonata [sə'nɑ:tə ɪ'nɑ:tə]
- compose [kəm'pəʊz ɪ'kəm'pəʊz]
- overcome < overcome [ˌɒvə'kʌm ɔ:və'kʌm]
- personal [pɜ:nsəl ɔ:'pɜ:nl]



ベートーヴェンのピアノを演奏する 2009 Asia Music

▶ 2. Beethoven [ベートーヴェンのピアノの作曲家(1770~1827)] ▶ 4. hearing [聴力]
▶ 5. listen to ~ [~に耳を傾ける]

Q&A
① What did Mr. Tsujii play in the competition?
② What does Mr. Tsujii want to do?

want wonderful walk world war
[w] language quickly quiet everyone once

WORD WATCH



competitionはcontest(コンテスト)とは異なり競争の場面で、動詞はcompete(競争する、競争の意味)です。日本語では「コンテスト」に動詞は使われず「コンペイト」で使われます。

MEMO
合字単語があるが、井さんは合字ではない。右の単語の語彙を調べ、単語の意味を聞いて、単語を音として発音している。おちちの単語でも発音に注意を要する。